

平成 29 年 2 月熊野市議会定例会市政報告

おはようございます。本日、平成 29 年 2 月熊野市議会定例会を招集させていただきましたところ、議員の皆さん方には大変お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

それでは定例会の開会にあたりまして、これから取り組む、また現在取り組んでいる主な事業の概要や進捗状況など 4 項目について簡単にご報告いたします。

まず 1 点目の（仮称）認定こども園木本保育所についてでございます。

木本保育所は、築 46 年が経過し、市内保育所で最も老朽化した保育施設であり、大規模地震や津波の発生時に園児の安全確保を図るため、近隣の適切な場所への移転を検討してまいりました。

その結果、移転先として、耐震性を備えている木本小学校のくろしお学園跡及び木本幼稚園の 1 階部分を妥当と判断し、本市で初めてとなる保育所と幼稚園機能を兼ね備えた「認定こども園」として整備を進めていくことを考えております。

今後の整備スケジュールは、平成 29 年度に改修工事のための設計

を行い、平成30年度に木本小学校の改修工事と現在の木本保育所の場所で先行して認定こども園を開設いたします。平成31年度は、改修工事が完了した木本小学校の場所に認定こども園を移し、本格的に稼働してまいりたいと考えています。

次に2点目の農地所有適格法人（農業公社）についてでございます。

農業公社事業については、これまで熊野市ふるさと振興公社において担い手育成を主たる目的に一事業部門として展開してまいりました。

しかしながら、近年の当地域における農業経営力の弱体化は、想定以上の速さで進行しており担い手育成はもちろんのこと農地保全やそれらの農地を活用した新たな事業展開が喫緊の課題となっております。

このようななか、国の様々な支援等をより幅広くかつ有効に活用しつつ、担い手の育成や特産品の振興など、一層強力で農業振興を図っていくため農地所有適格法人として、農業公社をふるさと振興公社から切り離し、市の農業の活性化を図りたいと考えております。

次に3点目の、観光DMO（台湾からの旅行関係者の^{しょうへい}招聘）につ

いてでございます。

東紀州地域では、「世界遺産・地域産業を活用した観光DMO推進協議会」を設置し、外国人旅行者の誘客促進に取り組んでいるところ
ろです。昨年11月に東紀州5^{しまち}市町の首長及び三重県南部地域活性化局長が台湾を訪問し、東紀州のPR活動を行ってきたところです。

この取り組みの一環として台湾から、2月14日から17日の期間、旅行会社及び旅行関係のメディア8社を招聘し、東紀州地域への誘客促進のための観光名所の案内や特産品をはじめとした食に関するプロモーション事業を実施いたしました。その際、参加者からは、台湾の方の食の好みや観光するだけでなく歴史・文化を体験できるツアーが人気であるなど現地の旅行事業者、メディアならではの視点での有益なご意見を多数いただいたところでございます。

今後、台湾を含め訪日外国人客数が毎年増加するこの好機を逃さないためにも、台湾を始めアジアや欧米などからツアーやFIT、いわゆる外国人の個人旅行者の誘客の促進に向け、受け入れ態勢の整備や情報発信、セールス活動等について、一層取り組んでまいりたいと考えております。

次に4点目の男女共同参画ステッププランについてでございます。

本市では過疎化や少子高齢化の進展といった社会経済情勢が大きく変化している中で、地域の活力を維持・活性化するためにこれまで以上に女性の産業振興や地域社会など、あらゆる分野への参画が望まれることから、平成 23 年度に策定したプランの改定を行い、平成 29 年度を初年度とし、平成 33 年度を目標年度とする熊野市男女共同参画ステッププラン（第 3 次基本計画）を策定いたしました。

今後はこのプランに基づき、これまで以上に男女共同参画社会の実現に向け取り組んでまいりたいと考えております。

以上、主な事業の進捗状況などについてご報告いたしました。

なお、今定例会におきましては、条例案など 19 件、報告 3 件合わせて 22 の案件を提出いたしております。

よろしく、ご審議を賜りますようお願い申し上げ、開会にあたりましての市政報告とさせていただきます。